

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	富山県市町村会館管理組合			代表者名	藤井 裕久
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	事務局	連絡先電話番号	076-441-1511
担当者役職	課長補佐	担当者氏名	上山 謙治	連絡先E-mail	
住所	930-8578 富山県富山市下野995番地の3				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署		連絡先電話番号		連絡先E-mail	
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail			

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（複数団体）	事業名	DX研修（仮称）
概要	県内の市町村職員が庁内DX化に取り組むために必要な知識の習得と意識を高めることにより、組織の変革や企画立案に活かせるスキルを身に付けることを目的とした研修を行っていただきたい。		
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） ICT活用広報		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年10月31日	事前打合せ(オンライン)	13時00分	14時00分	
				活動時間（分）	60
2-2. 派遣場所	会場名	オンライン	最寄駅	オンライン	
	所在地	オンライン	最寄駅からの交通手段	オンライン	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	下山 紗代子
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	12/19にDX研修を実施するにあたり、研修カリキュラム(案)やワークショップの内容について、具体的なアドバイスをいただくとともに、研修の進め方や研修方法について、助言を受けた。このことにより、特にDXや行革・企画部門の担当職員で、周りの理解が得られない、手法が思いつかないなどの課題がある市町村職員に、DXを活用して組織を変革するための方法や考え方を学んでもらうとともに、業務改善の検討プロセスを体験するワークショップを行うなど、研修内容が具体化した。
アドバイザーへの要望事項	事業の最終目標である「市町村職員の負担軽減が、結果的として住民サービスの向上にもつながることから、DXを用いたBPRIにより、理想の働き方・行政サービスを目指す。」ために、より具体的な取り組みにつながるような研修内容としたい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	4人	
	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	4		

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的に下記記入下さい）	市町村が業務の変革を進めるうえで、従前の仕事のやり方を「変えたくない人々」への対応（チェンジ・マネジメント）が課題となっており、市町村のデジタル変革への取組みを進めるため、組織全体にDXを推進しようという前向き思考（DXマインドセット）を浸透させることが必要である。
支援により目指す成果（具体的に下記記入下さい）	仕事の手法を“変えたくない人々”に対する「DXマインドセット」の浸透（チェンジ・マネジメント）を図り、行政手続きのオンライン化、窓口支援システムの導入などに積極的に取り組む。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	市町村職員が組織を変えるための知識や方法についての講義や「『やめること』から考える業務改善」のワークショップを行う中で、組織内へのDXの浸透にどのような障害があるのか情報交換を図ること。 また、受講者が所属組織で実践し、うまく行かないときには今回の研修で得られたネットワークを用い、解決に取り組めるような研修とすること。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	「『やめること』から考える業務改善」のフレームワークを利用した検討プロセスを体験し、DXの考え方を取り入れながら、理想の働き方や新しい行政サービスを実現する」ためのワークショップを実施するなど、カリキュラムの内容が明確化した。 具体的には、研修をワールドカフェ方式で行うこととし、参加者が業務改善要素を持ち寄り、ECRS(イクルス)の視点を用いながら、DXによる業務改善につなげることとした。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 事前の打ち合わせのため、特になし	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	「DXによる業務改善」のワークショップに際し、1グループ(5人程度)に1人(少なくとも2グループに1人)のテーブルファシリテーターを配置することが望ましいとのアドバイスをいただき、その配置の可否や適任者の選任について、持ち越しとなった。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 事前の打ち合わせのため、特になし	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるもののリストより選択下さい	①予算は確保済みであり、年度内に推進する
4-4. 事業の最終的な目指す姿	①市町村のデジタル変革への取組みをさらに進めるため、組織全体にDXを推進しようという前向き思考(DXマインドセット)を浸透させる。 ②市町村職員の負担軽減が、結果的として住民サービスの向上にもつながることから、DXを用いたBPRにより、理想の働き方・行政サービスを目指す。 ③最終的には、窓口に来なくても必要な手続きができるマイナンバーを用いた行政手続きのオンライン化や、窓口において手書きを最小化する総合窓口支援システムの導入につなげる。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可 https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

掲載許可 掲載可

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子
今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

